

6. 気象の状況

三面海に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島及び伊豆半島と並んで温暖な地方です。しかし両総台地は内陸性気候で寒暖差はやや大きく、反対に太平洋及び内湾沿岸は海洋性の気候で比較的暖かいです。

雨量は地域により差はありますが、房総丘陵の南側が多く、北西部は少ない。特に内湾沿岸は本県でも雨量の少ない地域です。

平成13年の天候の特徴は、冬は太平洋側では低気圧の影響を受けやすく、多雨、寡照でした。春は4月以降高気圧に覆われることが多く、気温は高く、降水量はかなり少なかったです。夏は梅雨明けがかなり早く、気温は高く、降水量は少なかったです。秋は低気圧や台風によりまとまった降水があったため多く、期間を通しては高気圧に覆われる日が多く多照となりました。

平成14年の天候の特徴は、冬は1月以降、移動性高気圧に覆われ気温の高い日が多く、降水量は1月に低気圧の通過があったため多くなりました。春は3～4月にかけて移動性高気圧や日本の北を通る低気圧により極端な高温となりました。夏は梅雨の時期で一時低温となりましたが、梅雨明け後は晴れて暑い日が多かったです。降水量は台風の上陸

(7月に千葉県に2個の上陸は初)や接近により多く、日照時間は多かったです。秋は10月下旬以降に冬型の気圧配置となることがあり強い寒気の影響で低温となり、降水量は少なかったです。

気象分布図

県内年間平均気温(℃)

県内年間降水量(mm)

2002年

2002年

